

第3章 計画の将来像と目標

1 みどりの将来像

● 住宅都市にふさわしい質の高いみどりを創造します。



これまでみどりの量を確保することが重視されてきましたが、自然災害リスクの高まり等に対応した持続可能な社会形成のため、都市の中にあるみどりの在り方を見直す必要があります。

住宅都市の中のみどりは、自然のままに任せた空間ではなく、人の手が定期的に加えられ、適正に管理された安心・安全で快適な場所として存在しなければなりません。また、住宅都市の中のみどりは、人との接点があるからこそ、その価値が高まります。

小金井市にふさわしいみどりは、安心・安全で快適な場所として、多世代の人が触れ合い、自然環境を学ぶ場としても活用され、市民が地域で暮らす楽しみを見つけることができる空間です。みどりの価値を市民が認識することで、市民が協働してみどりを保全し、持続可能な社会形成につながります。



(現行計画) わたしたちのみどり、育てるみどり、活かすみどり
⇒ 【キャッチフレーズ素案 (複数案)】
・みどりと人が紡ぐ笑顔の暮らし
・みどりが紡ぐ人の輪、みどりが織りなす笑顔の暮らし
・みどりと人が織りなすグリーンリビングこがねい

質の高いみどり

くらし

豊かなまち



※現行計画から加えるべき視点：

- ・改定にあたり、環境の保全や風土の形成、都市防災等の現行計画に示された視点はいずれも重要であるため継承します。
- ・一方、改定にあたっての基本的な事項の違いとしては人口減少の進行が挙げられます。現行計画では人口は増加が見込まれていましたが、次期計画期間では本市においても人口減少が見込まれます。
- ・また、現行計画では小金井市が住宅都市であるという特性に着目したみどりについて示しきれていなかったこと、みどりが多ければよいというのではなく、住宅都市として必要なみどりについての記載が不足していたことが挙げられます。
- ・人口減少をできる限り回避し、本市が今後も住宅都市として発展していくためには、本市の大きな魅力である住環境が良好に保たれ、選ばれるまちとして発展していくことが重要です。
- ・このために、みどりの多機能性をくらしの豊かさに活用する＝市民が笑顔になる、市民がくらしやすいまちになる、という観点を追加します。

※「紡ぐ、織りなす」は東京農工大学に受け継がれた養蚕の歴史から用いたものです。

※「グリーンリビング」は公園やオープンスペースを市民がリビングのように利用され、市域全体がみどりのリビングのようになることをイメージしたものです。

【参考】現行計画のキャッチフレーズ
＜計画の基本理念とキャッチフレーズ＞

本計画は、武蔵野の面影を残す国分寺崖線（はげ）沿いの樹林や湧水に代表されるみどりやそのみどりを育ててきた土、湧水を含む水、さらに玉川上水沿いの歴史的な風致、野川の自然を永く守り、親しめるものとする。

また、農業をはじめとするみどりを守り育てる産業を応援しながら、風土に根差した屋敷林や雑木林、豊かな大学のみどりなど、地域の特色を活かした将来のみどりの在り方を掲げます。

これらの考えのもと、市民、事業者、市、さらに大学等の専門家などの機関を加え、お互いに、連携できる仕組づくりを行い、共にみどりのまちづくりを進めていくことを計画の理念とします。

私たちのみどり、育てるみどり、活かすみどり

【参考】現行計画のみどりの将来像：概要版抜粋

4. みどりの将来像

みどりの拠点、地区の核となる公園、みどりのネットワークという3つの「みどりの骨格」を形成していきます。

みどりの拠点：大規模な都立公園と、大学を中心に災害時に広域避難場所や延焼防止機能、地球温暖化の緩和や多様な生きものを育むみどりとしての役割を担います。

地区の核となる公園：レクリエーション活動、町会の活動、自然に親しむ身近な場所など、地区内の公園利用活動の核となる公園として既存の都市公園を育てていきます。

みどりのネットワーク：みどりの拠点や地区の核となる公園などを結び、みどりのネットワークを形成し、市民が安心して散策・移動ができ、また、多様な生きものの通り道などの役割を担います。

国分寺崖線ゾーンのみどりと水辺

- 崖線のみどりがつながったみどりの帯として見える。
- 豊かな湧水が保たれ、野川の流れに注いでいる。
- 「はけの道」や野川の水辺が多く市民によって、散策道として利用され、親しまれている。
- みどりと水が一体となった豊かな環境として、野鳥や昆虫などが多様な生物が生息する。
- 樹林や湧水の保全に取り組んできた市民が、緑地の保全作業や観察・記録を続けるとともに、観察会などを行うことによって自然環境の価値を市民に知らせる活動を継続している。

玉川上水周辺の水辺のみどり

- 歴史ある玉川上水の水辺や小金井桜の維持、再生が進められ、市民の憩いの場所として利用されている。
- 五日市街道沿いはみどり豊かな落ち着いた景観が保たれている。
- 市民がきめ細かな草地管理に参加することによって、散策路沿いや水路内には、野草の花が見られるようになり、桜の時期だけでなく、四季折々の散策が楽しめるようになっている。

公共施設のみどり、学校のみどり

- 庁舎、図書館、集会所などの公共施設の緑化が進められ、みどりの多い都市としての印象が高まっている。
- 市内の大学や高校、小中学校のみどりがさらに増え、災害時の安全な避難場所が確保されている。
- 学校には、多様な生きものが休息、採餌できるような植物が植えられ、校庭の一角には、小さな池を核とするビオトープがつくられ、児童と地域の住民が草取りをしながら昆虫観察をしている。

中心市街地のみどり

- 身近な公園が確保され、地元の協力を得ながら、花壇づくりなどの活動が行われている。
- 駅前広場から続く商店街や業務施設の外観には、壁面緑化や接道部の緑化が進められ幹線街路にはみどり豊かな街路樹が育っている。
- 商業地の一角には、木陰を提供する高木と気軽に休息のできるベンチが添えられたポケットパークや広場公園が整備され、買い物途中に高齢者が一休みしたり、気の合った買い物客がおしゃべりをしている。

民有地のみどり

- 戸建て住宅の接道部には、四季の花が楽しめる生け垣が続き、歩道や街路樹がなくとも、みどりの散策路を提供している。
- 庭のあるお宅では、オープンガーデンが開かれ、地域の方が一緒に世話をしている姿が見られる。
- 壁面緑化や屋上緑化を行っている住宅や事業所・店舗が増えている。
- マンションでは、周囲に生け垣や高木が育てられ、ベランダには近くの公園の落ち葉を活用してつくられた腐葉土で育った草花がまちに彩りを添えている。
- 電車の高架壁面や電車区、鉄道と住宅地等との境界部など鉄道沿線の緑化が進められている。

農地と屋敷林・雑木林のみどり

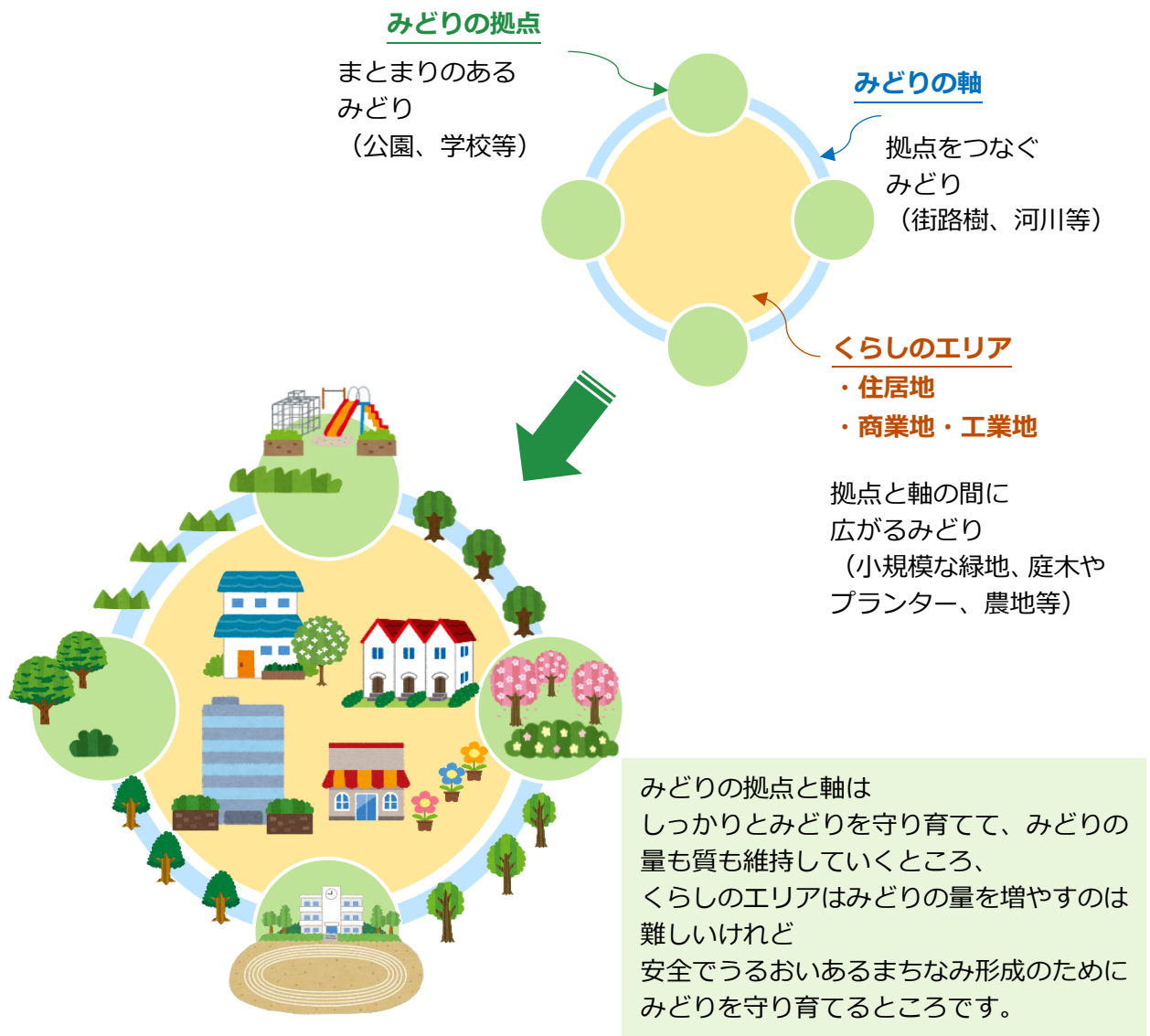
- 農地が市内に多く残されている。
- 市民農園など「農」と触れ合える農地がある。
- 農地や雑木林の自然を活かした公園や広場がある。
- 小金井の風土を象徴する屋敷林や雑木林が残されている。
- 屋敷林や保存樹木は、市民に地域の財産として認められ、地域の住民が落ち葉掃きや簡単なせん定など、一年を通して維持管理の応援に駆けつけ、所有者や管理者との交流を深めながらみどりを守っている。

2 みどりの配置方針

●用途や設置目的に適したみどりを配置します。

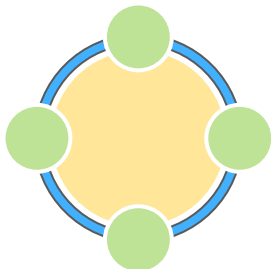
緑地を系統的に配置し、特性に応じて適正に管理していくため、環境や景観、防災やレクリエーション機能を踏まえて配置方針を示します。

配置方針図に定めたみどりの拠点や軸の特性に合わせて、みどりを保全・創出し、適正な管理を行うことで、みどりの将来像を実現します。



配置方針のイメージ図

現行計画の将来像図に示したみどりの位置づけを踏襲して、変更箇所を更新します。

みどりの軸	
<ul style="list-style-type: none"> みどりの軸は、崖線や河川、街路樹等の連続するみどりであり、みどりの拠点と拠点をつなぎ、緑陰の形成や景観形成等の人の移動を促したり、生物の移動経路、火災の延焼防止等の役割を担います。 主に市が取り組みを推進し、市民・事業者が取り組みを支えます。 規模や特性によって以下の軸に区分します。 	
	
<ul style="list-style-type: none"> ●歴史と自然軸 <ul style="list-style-type: none"> 小金井市の歴史や文化にも関りが深く、広域的な連続性があるみどりで、河川や崖線、主要な道路等が複数重なり、重要性が高い場所をまとめて位置付けます。 ●交流にぎわい軸 <ul style="list-style-type: none"> 東西方向に延びる歴史と自然軸に平行、直行して市内をつなぐみどりで、人通りが多く市民や来訪者が目にしやすい移動経路となる主要な道路、鉄道路線を位置付けます。 	

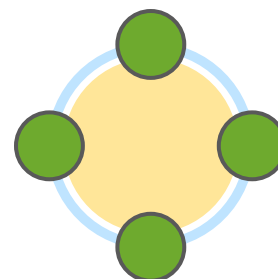
【改定案】都市マス（H24）の軸ではなく、現行計画の骨格や軸を継承します。

区分		対象	特性に合わせた管理方針
歴史と自然軸		<ul style="list-style-type: none"> 野川・国分寺崖線ゾーン（現行計画に示した国分寺崖線周辺の区域を指します。） 玉川上水・この周辺（五日市街道、砂川用水等） 	<ul style="list-style-type: none"> 生物の移動経路や景観に配慮したみどりの維持管理保全を行うとともに道路に面した民地の緑化を促進します。
交流にぎわい軸	主要道路	都道：新小金井街道、東大通り、東八道路、五日市街道、小金井街道 市道：北大通り	<ul style="list-style-type: none"> 東京都とも連携して、環境、景観等に配慮して街路樹の整備、維持管理を推進します。
	鉄道路線	<ul style="list-style-type: none"> JR 中央線 西武多摩川線 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道敷地の接道部の緑化を支援し公的施設で活用する場合の積極的な緑化を推進します。

現行計画の将来像図に示したみどりの位置づけを踏襲して、変更箇所を更新します。

みどりの拠点

- ・みどりの拠点は、まちなかに点在するまとまりのあるみどりであり、ヒートアイランド等の気象緩和や大気浄化等の環境保全の機能を発揮するとともに、人が集いレクリエーションやコミュニティ形成の場と、生物の生育・生息環境、災害時の避難場所等としての役割を担います。
- ・主に市・大学等が取り組みを推進し、市民・事業者が取り組みを支えます。
- ・規模や特性によって以下を拠点に区分します。



● 広域交流拠点

- ・規模が大きくみどりの多さを印象付け、市内外から広域的に人が集まる都立公園・霊園や大学等を位置づけます。

● 身近な交流拠点

- ・地域の人にとって身近なみどりである、都市公園等や学校等の公民館を位置づけます。

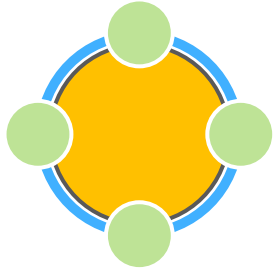
【改定案】都市マス（H24）に合わせて拠点を市営都市公園に拡大します。

区分		対象	特性に合わせた管理方針
広域交流拠点		<ul style="list-style-type: none"> ・都立小金井公園、都立武蔵野公園、都立野川公園 ・都立多摩霊園 ・東京学芸大学、東京農工大学、法政大学 	<ul style="list-style-type: none"> ・景観、環境保全、湧水保全、生物多様性保全、防災と複数機能を発揮できるみどりを維持します。 ・広域避難場所としての活用・整備を行います。（都立公園・大学）
身近な交流拠点	公園・緑地	<ul style="list-style-type: none"> ・都市公園（市管理・国管理・住宅供給公社管理） ・特別緑地保全地区 ・公共緑地 	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション機能を充実し、市民活動の場としての活用を促進します。 ・市民の憩いの場としてうるおいや安全性を感じられるみどりを創出・管理します。
	学校・公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校・高等学校 ・市庁舎等 	<ul style="list-style-type: none"> ・一時避難場所や避難所として、災害時のオープンスペースの確保、防災機能の充実、延焼防止等みどりの維持管理。安全に配慮したみどりを育成します。

【改定案】以下、黄色の帯は、現行計画にはない新規の配置になります。

くらしのエリア

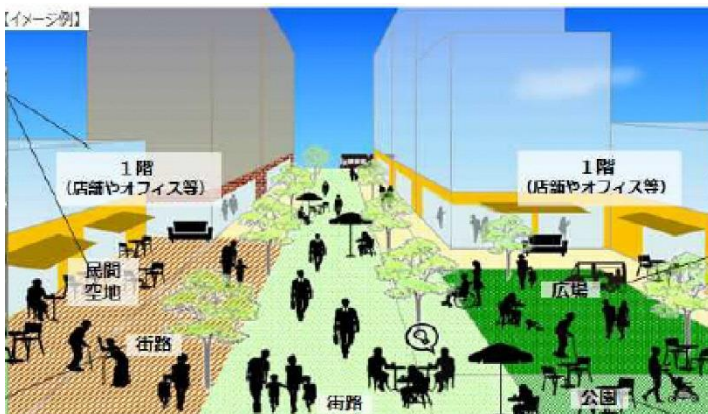
- ・くらしのエリアは、みどりの拠点と軸の間に広がる住宅や事業所が立地する場所で、屋敷林、小規模な緑地、庭木やプランター、農地等のみどりが存在する場所です。
- ・これらの区域は市民等が所有するみどりが多いため、恒久的にみどりの量を確保すること難しい状況ですが、生け垣やプランター等を用いた視覚的に楽しめるみどりの創出や、安全・安心な環境づくりのためのみどりの維持管理を推進します。
- ・主に市民・事業者が取り組みを推進し、市が取り組みを支えます。



区分	対象	特性に合わせた管理方針
住居地のみどり	<ul style="list-style-type: none"> ・住居地 (第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域) 	<ul style="list-style-type: none"> ・区域の公園や街路樹、屋敷林等のみどりについて、生活の安全や安心を感じられるよう、植栽する樹種の選定や適正なみどりの維持管理を推進します。 ・住宅の庭や、生け垣やプランター等による季節を感じられるみどりの創出を推進します。
商業地・工業地のみどり	<ul style="list-style-type: none"> ・商業地 (商業地域・近隣商業地域) ・工業地 (準工業地) 	<ul style="list-style-type: none"> ・店舗軒先や道路際を活用したプランターや壁面緑化等僅かなスペースを活用した緑化を推進し、歩いて楽しめるまちなみの形成を推進します。 ・官民連携により人の出入りが多い駅前のみどりを増やし、小金井市の顔となり立ち寄りたくなるみどりの景観形成を推進します。※1

【改定案】みどりを保全や維持管理する性格が強いみどりの拠点・みどりの軸に対して、住宅地や商業地について、新規にみどりの配置方針を示します。これらの区域は面的なみどりを確保することが困難であるため、生け垣やプランター等を用いた視覚的に楽しめるみどりの創出や、安全・安心な環境づくりのためのみどりの維持管理を推進します。

※1：市民アンケート調査で「市のシンボルとなるシンボルツリーや桜並木を増やしてほしい」、「駅前のみどりを拡充してほしい」という意見が複数みられ、市の印象を高めるみどりの創出が重要となります。駅前土地が限られますが、大型プランターの設置や、区画整理に合わせたシンボルツリーや花が咲く樹種の植栽等の施策等を想定します。



【参考図】

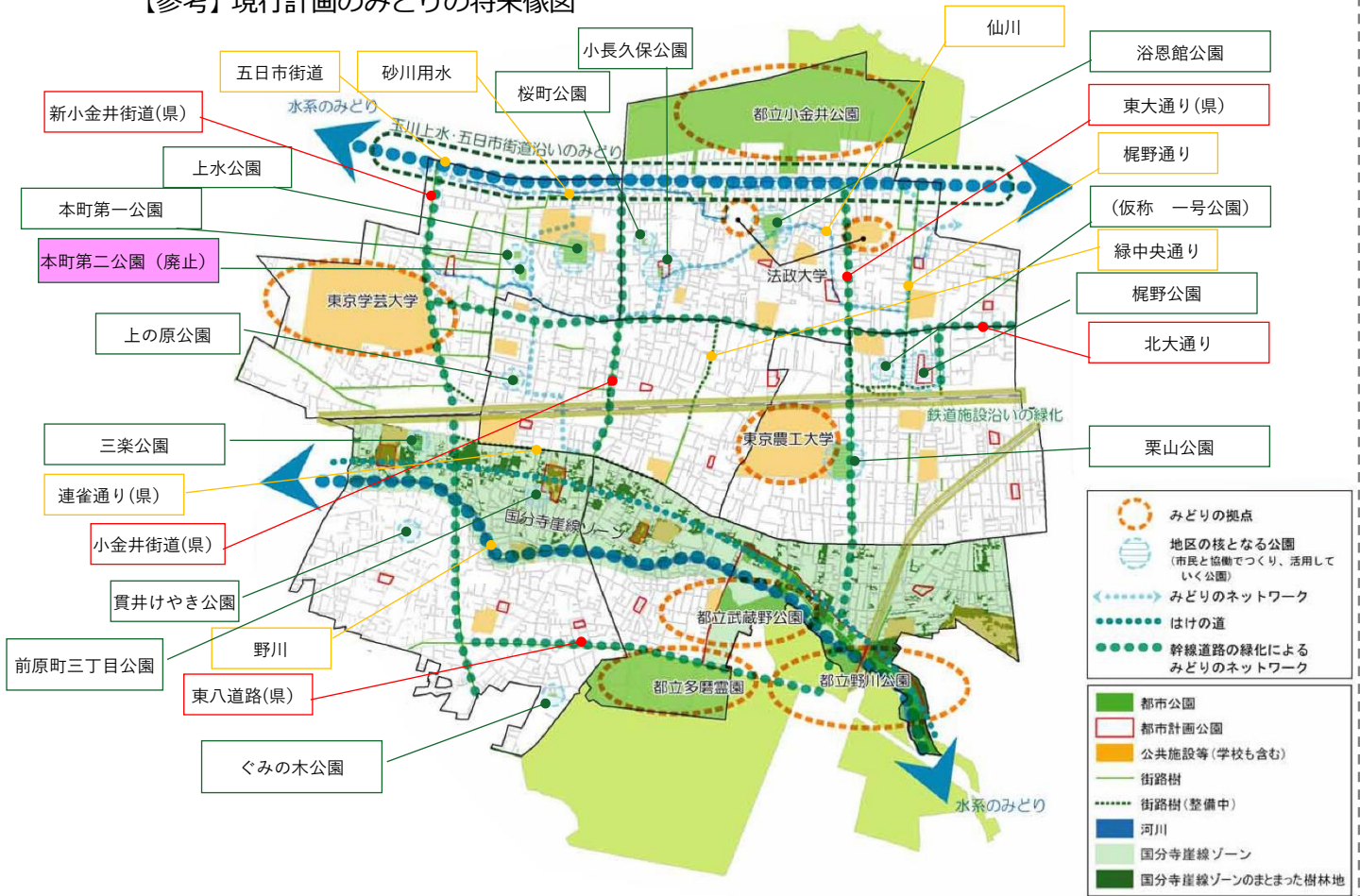
商業地・工業地のみどりイメージ
 ・歩行者の目線(アイレベル)に着目し、街路・公園等の既存ストック(公共空間)を最大限活用した賑わい空間を創出

「居心地がよく歩きたくなるまちなか」イメージ図
 出典)国土交通省(「まちなかウォークアブル推進プログラム」)

みどりの配置方針図(素案)



【参考】現行計画のみどりの将来像図



4. みどりの将来像

基本理念、基本方針を踏まえた施策により、守り、つくられていく、みどりの拠点、地区の核となる公園、みどりのネットワークを図化すると、次ページの図3-2に示す「みどりの将来像」図に示すような(1)みどりの拠点、(2)地区の核となる公園、(3)みどりのネットワークという3つの「みどりの骨格」を形成することを目標とします。

以下に、みどりの骨格の役割を示します。

(1) みどりの拠点

日常から週末レクリエーション活動ができる大規模な都立公園と、市街地にあって貴重なみどりを提供している大学です。みどりの拠点は、災害時に広域避難場所や延焼防止機能を担うとともに、地球温暖化の緩和や多様な生きものを育むみどりとしての役割を担うことを目標とします。

○みどりの拠点

- ・大規模公園—都立小金井公園、都立武蔵野公園、都立野川公園、都立多磨霊園
- ・大学—東京学芸大学、東京農工大学、法政大学

(2) 地区の核となる公園

レクリエーション活動、町会の活動、自然に親しむ身近な場所などとして利用できる公園であるとともに、地区内の公園利用活動の核となる公園として育っていくことを目標とします。

○地区の核となる公園

- ・武蔵小金井地区—三楽公園、上水公園、小長久保公園、上の原公園、桜町公園、本町第一公園、本町第二公園
- ・東小金井地区—栗山公園、浴恩館公園、梶野公園
- ・野川地区—ぐみの木公園、前原町三丁目公園、貫井けやき公園

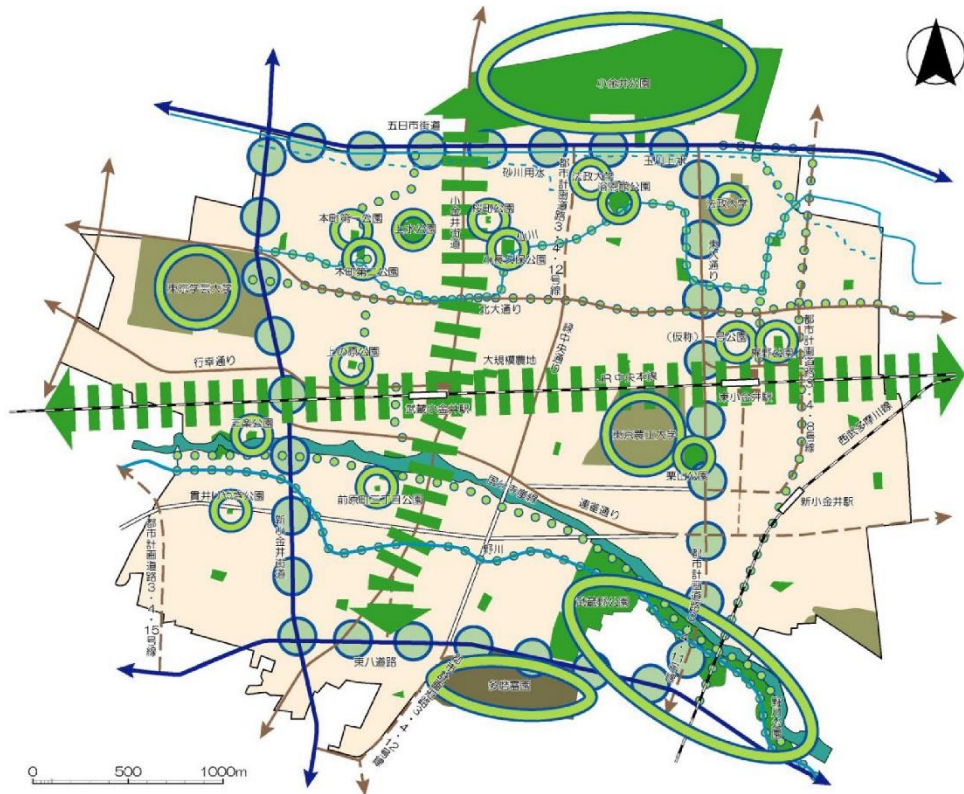
(3) みどりのネットワーク

国分寺崖線の樹林、水辺、道路の街路樹など、みどりの拠点や地区の核となる公園などを結び、みどりのネットワークを形成し、市民が安心して散策・移動ができ、また、多様な生きものの通り道などの役割を担うことを目標とします。

○みどりのネットワークをつくるみどり

- ・骨格となるみどり—国分寺崖線のみどり、野川と川沿いのみどり、玉川上水と上水沿いのみどり
- ・道路の街路樹—小金井街道、新小金井街道、東大通り、北大通り、東八道路等

環境共生のまちづくり方針



凡例

	みどりの拠点		国分寺崖線（はけ）		都市計画道路
	みどりの軸		大学		鉄道・駅
	みどりの大きな環		広域幹線道路		河川
	みどりの小さな環		幹線道路 （整備済・概成・整備中）		
	都市計画公園・緑地		幹線道路 （今後整備を進める路線）		

「環境共生のまちづくり」を実現するための都市構造

☑みどりの拠点

大規模な水とみどりの空間は、都市の温暖化や大気汚染を緩和する機能を有します。こうした観点からも、小金井公園、野川公園、武蔵野公園などの大規模公園・緑地はみどりの拠点として保全に努めます。

☑みどりの軸

☑南北軸

小金井街道は、北は小金井公園から南は多磨霊園まで、玉川上水、仙川、国分寺崖線（はけ）のみどり及び野川など小金井の主要なみどりの資源を結ぶ位置にあります。これをみどりの南北軸として位置づけ、沿道の歩行者空間の拡充や、電線類地中化（無電柱化）や街路樹の植栽などの整備を進めます。

☑東西軸

JR中央本線沿線ゾーンは、みどりの東西軸として位置づけ、JR中央本線利用客（来街者）が小金井らしい風景を視認できるよう、緑化を進めます。

☑みどりの環

☑みどりの大きな環

都市の骨格でほぼ外周を形づくる五日市街道、新小金井街道、東八道路及び東大通りをみどりの大きな環に位置づけます。五日市街道は玉川上水の名勝小金井（サクラ）並木などの親水空間を活かし、新小金井街道、東八道路及び東大通りは地域の特色を踏まえて街路樹の整備を図るとともに、小金井公園、野川公園、多磨霊園などのみどりの拠点間の回遊性を高めます。

☑みどりの小さな環

国分寺崖線（はけ）のみどり、はけの道、野川などの水とみどりの資源を活用するとともに、仙川や砂川用水を親水空間化することにより、水とみどりのネットワーク化を図り、みどりの小さな環として位置づけます。みどりの小さな環は、散策路を中心とした整備を進めます。

3 計画の基本方針

● 3つの基本方針に基づき、みどりの将来像を実現します。



基本方針1 みどりの保全

本市の豊かなみどりを印象付ける国分寺崖線や玉川上水、野川といったみどりの軸や大学のみどりを引き続き保全するとともに、相続等により失われつつある農地、社寺林や屋敷林等の民有地に広がるみどりを次世代へ継承します。

(主に現行計画の基本方針1、2が該当します)

基本方針2 みどりの創出

公園等の新規整備を行うとともに樹木の剪定や更新等、適正な管理を行い、市民が親しみやすい公園づくりを行います。

住宅地や事業所等の民有地では、生け垣や花壇、プランター等のみどりを創出し、身近にみどりを感じられるまちづくりを推進します。

(主に現行計画の基本方針1、3、4、5が該当します)

基本方針3 市民協働の拡大

市民、事業者、大学、東京都及び市が協働し、多様な世代、多様な関心をもつ市民が、それぞれの興味や特技に応じて参加、交流できるみどりの活動の場や機会を提供し、みどりの保全の担い手となるボランティアを育成します。

(主に現行計画の基本方針5、6が該当します)

※見直しの視点：現行計画から加えるべき視点：現行計画では6の方針(以下の1-6)が示されており、施策は3本柱と、この関連が見えにくい状況です。このため、内容は現行計画を踏襲しますが、基本方針を施策の柱の3つに合わせます。

- (1) 小金井らしいみどりを守り、質の向上を目指します
- (2) 生きものに配慮したみどりをつくり、守ります
- (3) みどりのネットワークを形成する
- (4) 生活における安心・安全のためのみどりをつくり、守ります
- (5) 誰もが身近に親しめるみどりをつくり、守ります
- (6) 市民、事業者、大学、市が共同で取り組める仕組みをつくりま

※各基本方針に紐づく施策は概ね現行計画を基として改定方針に合わせ修正を加えます。

↓括弧内は現行計画の施策

↓現行計画の施策（改訂版は第3回委員会で検討します）

基本方針 1 保全

(1. みどりを守り、
活かすための施策)

- (1) 国分寺崖線ゾーンのみどりを守る (軸)
- (2) 玉川上水の水辺のみどりを守る (軸)
- (3) 民有地のみどりを守る (エリア)
- (4) 学校のみどりを守り、活かす (拠点)
- (5) 農地を守り、活かす (エリア)

基本方針 2 創出

(2. みどりをつく
り、育て、活かすた
めの施策)

- (1) 新たな公園等をつくり、育てる (拠点)
- (2) 公園等を再生し、活かす (拠点)
- (3) 公共施設のみどりを地域のみどりとして育てる (拠点)
- (4) みどりのまち並みをつくる活動を支援する (エリア)
- (5) みどりのネットワークをつくる (軸)

基本方針 3 市民協働の拡大

(3. 市民参加でみど
りを守り、つくり、
活かすための施策)

- (1) 市民がみどりを守り、つくり、活かす活動の支援体制をつくる
- (2) 市民の誰もが参加できる活動の仕組みをつくる
- (3) みどりをつくり、守り、育て、活かす活動を担う人材を育成する仕組みをつくる
- (4) みどりをつくり、守り、育て、活かすための情報を発信する仕組みをつくる

4 計画の目標

●みどりの量と質に関する数値を掲げます。

※現行計画から加えるべき視点：現行計画では数値が明記されない目標も示されていますが、成果が見えやすいよう数値化できる目標を示します。全体目標と個別目標が多数あることで成果が分かりにくいいため、量と質の観点で目標を絞り込み、計画の目標以外の数値は実施計画の指標として示します。

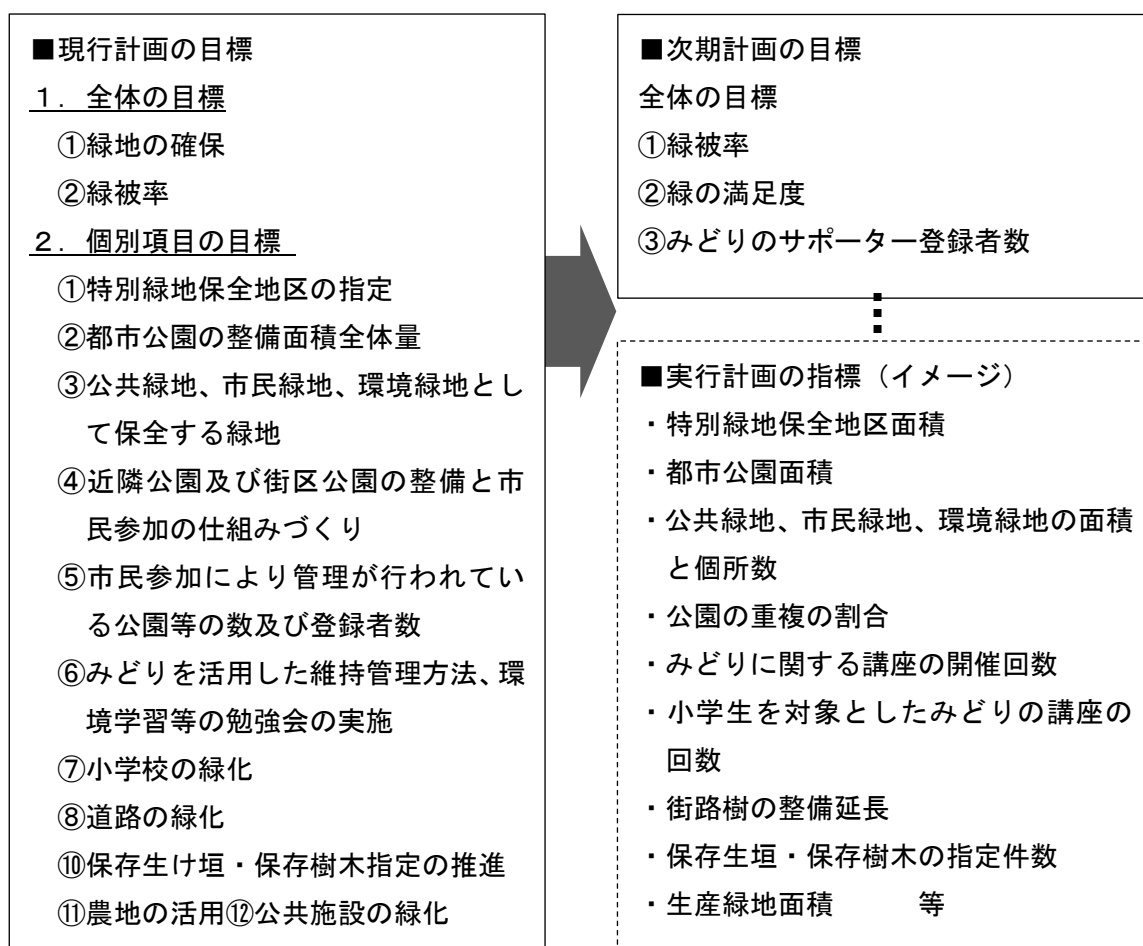


図 目標の設定イメージ

※まずは、目標（案）と目標値設定の考え方を示します。具体的な数値については、今後、施策検討結果等も踏まえて第4回検討委員会以降に設定します。

○緑量の目標：緑被率

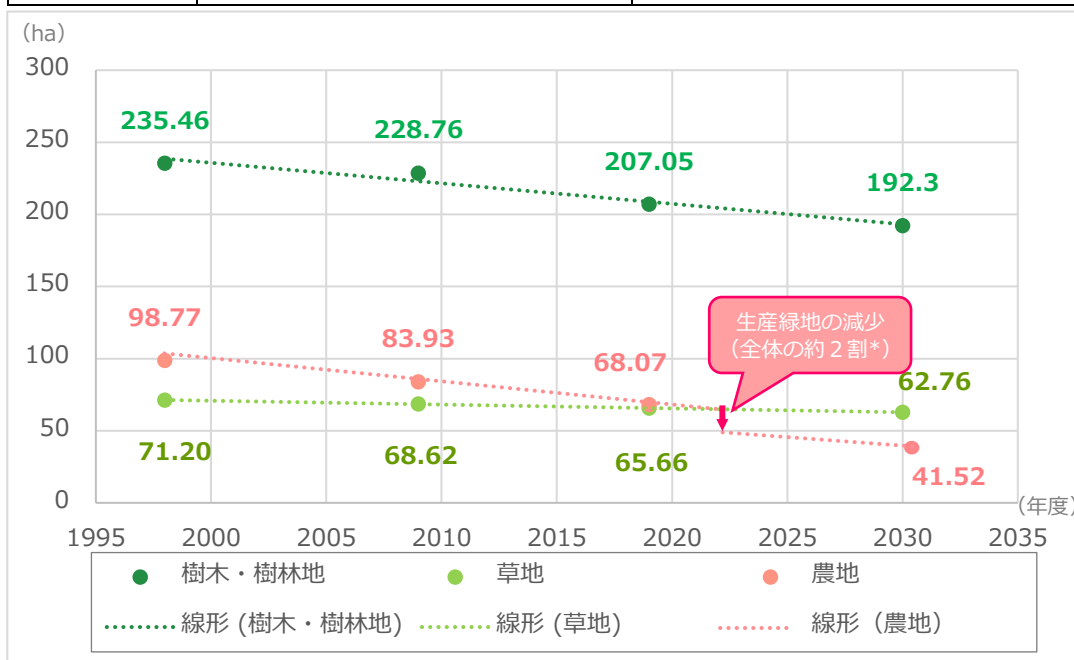
- ・現行計画では、みどりの維持増加のための各種施策の実施により、緑被面積及び緑被率の「現状維持」が目標として掲げられていますが、基礎調査の結果、緑被面積及び緑被率の減少傾向が確認され、現行施策を継続した場合、現状を維持することも困難であることが予測されます。
- ・目標水準の設定にあたっては、緑被面積及び緑被率は減少することを前提に、①調査を開始した平成10年度以降の傾向から、現行施策を継続した場合の10年後（次期計画満了時、令和12年度）の緑被面積及び緑被率の予測、②次期計画の施策を踏まえた適切な目標値の検討が重要です。
- ・具体的には下記の要領での予測、目標値設定を想定します。

【①現行施策継続時の緑被面積・緑被率の予測】

- ・施設緑地及び地域制緑地により10年後以降も維持されるみどりや2022（令和4）年に指定後30年を迎え、大規模な減少が懸念される生産緑地等、想定される各種要因を考慮の上、調査を開始した平成10年度以降の傾向から回帰モデルを作成し、10年後（次期計画満了時、令和12年度）の緑被面積及び緑被率を予測した結果、下表のような結果となりました。

表 緑被面積の減少予測

凡 例	令和元（2019）年度緑被面積 （実績値）（ha）	令和12（2030）年度緑被面積 （予測値）（ha）
樹木・樹林地	207.05	192.30（▲14.75）
草地	65.66	62.76（▲2.90）
農地	68.07	41.52（▲26.55）
総計	340.79	296.59（▲44.20）



*:小金井市の生産緑地所有者を対象としたアンケートで、全体の約2割が2022年度までに「全部の買取を申し出」または「一部の買取を申し出」と回答（H30,国土交通省）

図 緑被の減少予測

【②次期計画に盛り込む施策を踏まえた緑被面積・緑被率の目標値の設定】

- ・上記予測をもとに、次期計画に新規また拡充する施策の個別の目標値から積み上げにより設定を行います（従来と同程度の取組を想定する施策については予測に含まれるため、基本的には拡充する施策や新規に実施する施策のみを考慮することを想定します）。

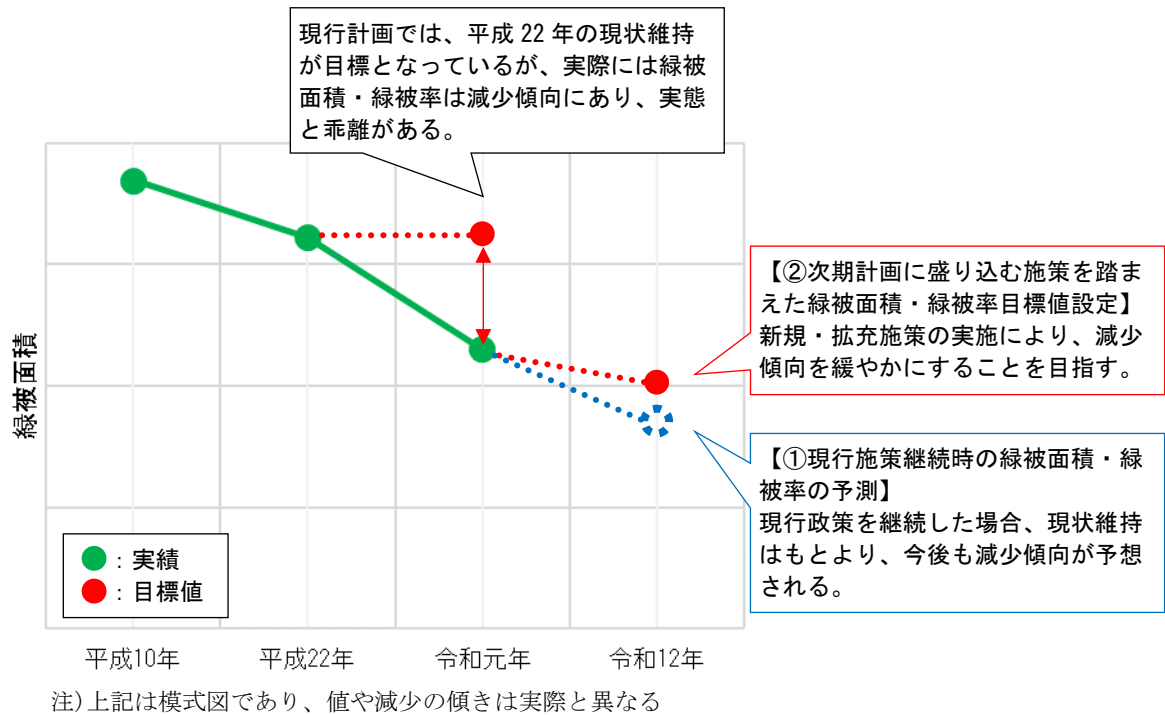


図 緑被面積・緑被率の予測及び目標値設定のイメージ

※現行計画から加えるべき視点：基本理念で豊かなくらしや快適性等を示しているのに合わせて、満足度や市民参加を全体目標の一つに加えます。（現在、活動登録者数は個別目標にありますが、満足度は目標にしています。）

※みどりの満足度については、第5次総合計画基本構想において用いており、且つ、毎年調査を実施するため進捗が図りやすい市民意識調査結果を用います。

○質の目標：みどりと水の環境整備への満足度

- ・令和元年度調査では、「満足している」、「やや満足している」の合計が63.2%でした。施策の展開により満足度を高める方針での目標値設定を想定します。

①みどりと水の環境整備に満足している

「どちらかというと思う」が45.1%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が21.1%、「そう思う」が18.1%となっている。

そう思う人（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計）は63.2%である。

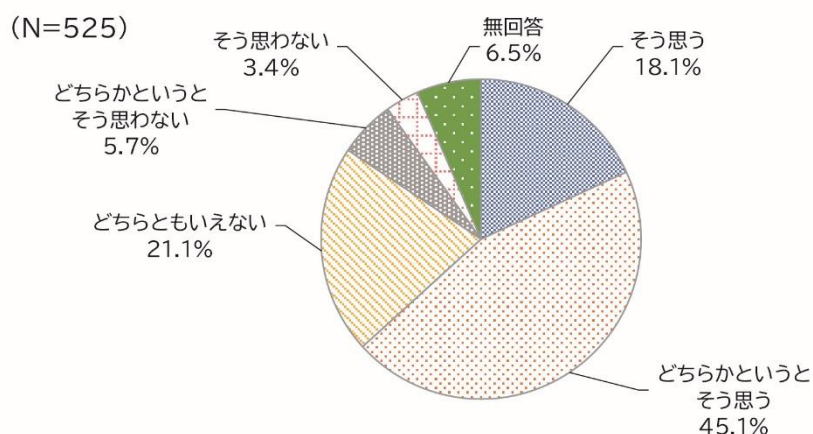


図 「令和元年度小金井市市民意識調査」におけるみどりと水の環境整備への満足度

○市民の関わりに関する目標：みどりのサポーター登録者数（他にイベントや講座の開催数 等）

- ・みどりのサポーター登録者数についても単年度調査のため変化の推計が不可能ですが、施策の展開により現況より登録者数を増加する方針での目標値設定を想定します。

表 みどりのサポーター登録者数の現行計画における目標値及び実績

項目	平成22年度 (現状)	平成32年度 (目標年)	平成30年度 (実績)
みどりのサポーター登録者数	—	200人	224人